

# INFORMATION エセナおおた 第22号

平成19年9月15日

発行：大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

## ジェンダーへの気づきから 次世代の地域リーダーへ



エセナおおたが4年前から取り組んでいる事業の一つに、30代から40代前半の子育て中の女性を対象とした、1年間にわたるプログラムがあります。社会教育の「気づき」と「実践」の学習手法を取り入れ、ジェンダーに敏感な視点を持った若い世代が地域リーダーとして活躍することを目的としています。女性学の基礎を学ぶ講座を受講後、講座の企画・運営、記録誌作成までを担うことによって、潜在能力を引き出す一連の事業が、全国女性会館協議会の2007年度事業企画コンテストで大賞を受賞しました。

男女雇用機会均等法の施行以降に働き出した女性たちは、仕事で頑張れば、ある程度認められ、評価された世代です。ところが、結婚し子どもを産み、家庭に入った途端、「女だから、家事・育児ができて当たり前」と、女役割・母親役割を押し付けられます。しかし、周りの期待や自身が描いていた通りに子育てがうまくいくわけではありません。子どもとふたりきりの生活に、なぜかイライラ・モヤモヤしています。

今の若い世代のキーワードは「共感」です。自分のライフスタイルや思考、価値観が似ている人同士で集まる傾向があり、共感してもらえることで、安心して本音を話すことができます。

年度初めの5月に開催する4回連続のジェンダーに関する基礎講座は、子育て中の専業主婦が参加しやすい平日の午前中に設定し、保育付きです。講座最終日に、秋に実施する10回連続の講座企画員を募集します。

10回にわたる企画会は、企画員が参加しやすい平日の午前中、保育付きで行ないます。司会、記録を持ちまわりで決め、全員で役割分担します。企画会では子育て中の女性が抱えている課題は何か、全体テーマをどうするのか、プログラムや

学習方法の検討、講師の選定、講師交渉、広報手段の検討、ちらしの作成・印刷、抽選、当選・落選の連絡も行ないます。

課題を抱えている人たちが「参加したいと思う」と、考えに考え抜いたタイトルは、2004年「コミュニケーション上達講座 私を知ろう！ 相手を知ろう」、2005年「ココロを軽く 私らしく～そのまんまでいいよ～」、2006年「わたしへのごほうび講座」でした。2007年の今年は「幸せ“オーラ”を味方につける女性学講座」です。

10回のうち講師を招くのは5回のみ、あとの5回は、企画員がファシリテート役になるグループワークやディスカッションです。司会、受付、記録、写真係、会場準備、各回のアンケート集計などの他に、講座の雰囲気づくりも大切な役目です。

記録誌の作成には、企画員だけでなく、本講座に参加した受講生にも声をかけ、編集会議を行ないます。メンバーを4つのグループに分け、講座記録とアンケートを元に話し合いを重ねながら、原稿を作成していきます。ポイントは「ジェンダーに敏感な視点」です。

編集会議も保育付きで平日の午前中に行ないますが、会議の進行役、記録、原稿作成、表紙のデザイン、レイアウト、校正、印刷、製本まですべてを担います。これまでパソコンに触ったことのない人は必死でワードを覚えます。

記録誌の「感想と気づき」を読むと、モヤモヤの原因がジェンダーにあることに気づき、ココロが軽くなった人、「母親らしさ」「女らしさ」ではなく、「自分らしさ」を取り戻した人とさまざまです。編集会議を経験したことで自信が付き、次年度の企画員に挑戦する人、パソコン講座のアシスタントやエセナおおたの職員として働き出した人など、女性たちは地域や家庭で「男女平等」の発信者として活躍し始めています。

# 女の生き方塾 ひととはな 咲かせるための

## 団塊世代の夫婦・母娘関係考

現在開催中の講座「女の生き方塾～ひととはな 咲かせるための攻略ガイド」のなかから「もどってくる…その人の名は“夫”～もう一人の手ごわいヤツ、それは娘」と題した渡辺美恵さん(NPO 法人「生活企画ジェフリー」理事長)のお話をお届けします。団塊世代に限らず、夫婦や母娘の関係を見直すための示唆に富んだお話です。



## 攻略ガイド

### 中年男女の意識のズレや摩擦の現実を覗いてみる

定年で家庭に戻ってくる夫と困る妻。それは、男性と女性の意識差があまりにも大き過ぎるからではないでしょうか。生活者の視点というのが、男性にはほとんどないのです。

私が調査した中にも「夫と妻の勘違い」ということが明確に出てきました。「妻はオレより長生きするはず」「妻はオレの親を看てくれるはず」「妻は家事が好きはず」という“はず”を男性たちは信じているのです。

妻もけっこう勘違いをしています。「夫は私がいなくて何も出来ない、困るんですよ」と言いますが、困るようにしているのは自分ではないでしょうか。「私が我慢をすれば、この家はよくなる」と自己犠牲を愛と錯覚していたり、自分が女性なのに「女のやることって大したことないのよ」と決め付ける人、また「男は仕事が命なのよ」と、女性自身が認めているのでしょうか？ 女性だって仕事は命、子どもも命、女性は命をいっぱい背負って生きているのです。

中央区立女性センター情報誌『ブーケ(No50)』には、夫が定年を迎えた時の男女の温度差が出ています。定年を迎える男性は85%が「楽しい」と言っているのに、女性の40%は「ゆううつ」と答えています。

もっと興味深い数字は、「家庭における男女の研究」の「夫婦の不満」という枠の中で、「ストレスの原因はなんですか？」ということに対し、男性の1位は「会社の上司」、2位は「仕事の取引先」、3位は「会社の部下」で、男性の頭の中は会社の事しか考えていないような結果でした。

女性はどうかというと、ストレスの第1位は「旦那」、2位は「会社の上司」、3位は「子ども」でした。

これを見た時に、私はハッとしました。男のストレス源はすべて「仕事」、それだけ厳しく大変だということは分かります。では女性はというと、「旦那」=家事や家庭、「会社の上司」=仕事、そして「子ども」=子育てのストレスを表しており、はからずも男は仕事だけ、女は家事・育児に加えて、仕事という新役割分業の世界がはっきり出ていました。

では「ストレスをどう解消しているか」というと、女性は「買い物」が1位です。男性の1位は「一家の団欒」だそうです。仕事のストレスを解消するのは大事なことですが、いきなり家族を

集め、「団欒だぞ」と言われても、その対応は難しいのではないのでしょうか。

男性ばかり悪く言ってはいけないので、彼らも大変だということを少しお話ししたいと思います。

自殺者の人数が8年連続で、年間3万人を超えています。うち男性は72.5%、50代が全体の25%、50歳以上は60%です。これは男性が何らかのストレスを抱え、どうにもならなくなっている状況を物語っています。

しかしそれだけかなという気もするのです。男性は女性に比べ、クリアする方法を知らない弱さがある、策が練れない、ネットワークがない、助けを求める場所がないなど、いろいろな意味で孤独のような気がしてなりません。男性は社会に出て敵はいるけれど、仲間っていないのかなという思いがあります。それは定年を過ぎて地域に戻ったとき「さあどうしよう」という彼らの悩みとも共通するものがあるのかもかもしれません。

### 夫攻略法～夫が変わるとき、夫を変わせるとき

家に居続ける「みのむし夫」(一日中パジャマ姿で寒くなればその上に上着をはおり、テレビの前でゴロゴロしている夫)の話もあつたようですが、それでは困る、夫を変えたいと思う女性に、「あなた本気ですか？」ということを問いかけた。やるなら本気でやってみましょう。夫に本気が伝われば夫もビックリし、思いつきでやっているのではない、これは大変だと思ひ、彼も変わることでしよう。

夫は主人ではありません。私の中の主人は私である、私が主体ということ意識して家族と接する、妻や母の主体性・人権を大事にしてほしいと思います。

あうんの呼吸とよく言いますが、これは夫にとって都合のよいことが多く、妻にとっては居心地良い状況ではありません。これはおかしいなと感じた時は、喧嘩にならない程度に少しずつ夫の意識を変えていくことも大事です。

一心同体の生活はやめましょう。心も身体も別の二身異体の者たちがどうやって共有しあい尊重しあい生きていくかが、50歳過ぎからの私たちの“ひととはなを咲かせる”大事な基準ではないでしょうか。「私は本気よ、変わろうとしているのよ、社会に目を向けているのよ、あなたの思い通りにいかないわよ、あなたとは違う視点もあるのよ、一人の独立した人間なのよ」と

いうことを機会あるごとに、少しずつ優しく見せられたら良いなあと思っています。

### 娘攻略法……娘が変わるとき、変わらせるとき

自分自身は娘が手ごわいと思っていないのですが、一般論で考えてみると、同性同士の意見、鋭い目線、期待感などが母娘だと単刀直入になってしまうのだと思います。

そうであるなら、一つは、女同士の問題意識の共有が必要なのではないかと思います。相手の気持ちを尊重するということは親であっても、他人ならなおさらのこと必要です。正直にものを言うことがすべからずいいのか、というそうではないということは、おとなの女として学んできたことだと思います。また、今の時代に女性たちが一定程度の自由を得てきたのは、長い間の女性差別の歴史を変革してきた先達がいるということ、時にはちょっと母娘で話してみてもいいかなと思います。先輩の女性の努力があって今あなたたちが生きている、ということを伝えましょう。

それから「私の若い頃は…」という言葉、これは禁句です。今を生きる娘だって一所懸命生きているのです。働き続けられるようになったけれど、働きながら家庭も切り盛りしなければならず、ある意味では、今の方がもっと厳しいかもしれません。

そういう中で結婚観も随分変わってきています。たとえば、一昔前の結婚相手に望んだ3高(高学歴、高収入、高身長)は、3低に変わってきました。今の世代は賢いです。私にとって楽な人、私が仕事をできる人、私の気持ちをちゃんと聞いてくれる人を選ぶのです。つまり、いづれどうなるかもわからない大企業ではなく低リスクの男、私と一緒に掃除や洗濯してくれる低姿勢の男、そして自分におんぶに抱っこしてこない低依存の男なのです。彼女たちは彼女たちなりに新しい時代を生き、考えている、そうした今を生きる女性のことも理解してあげましょう。

とはいっても、母や父や周りのおとなたちを大事にする、尊敬する心は必要です。そこは長く生きてきた私たちが生身の感想、生活の知恵を伝えていくべきでしょう。どうやって人と調和しながら生きていくかということ、おとなの女である私たちが大いに伝えてあげるべきだと思います。

### 私ができることって、たくさんある！ 自信をもって！

夫にも、娘にも問題はあります。でも問題のある人の悪口を言っても、私たちは“ひとほな”咲かせられません。一步を踏み出させません。それには、自分の持っている力を見直してみましよう。

「私、家庭の主婦ですから何もできません」と言う方がいますが、家庭に閉じこもっているだけではなく、社会との繋がりも持っているはず。それに洗濯だっでご飯を作る事だって立派な仕事です。主婦のやっていることを外注すると、すごい金額になることに驚きます。

アメリカのあるシンクタンクで、家事の価値を有償換算したら年約1,600万円になりました(2007年5月に出た試算)。

主婦の仕事は、子育て、食事作り、家計管理、洗濯、事務仕事、掃除、設備管理(電球を換える、トイレの水詰まりを治すなど)、車での送り迎え、家族の心のケア、介護などなど、そして何よりも大きいのは家族のCEO＝経営最高責任者(総マネージメント、コーディネーター)でもあることです。

料理など得意分野をビジネスにした人も大勢いるし、今コミュニティ・ビジネスといって、ネットワークを組んで事業にするということも行われています。「集まる」ところから、もう一步どんな花を咲かせたいのか考えてみるのもいいのではないのでしょうか。

### “ひとほな”咲かせる、今が仕切り直しのチャンス

このように私たちは価値ある仕事をしていることに自信を持っていいけれど、主婦一人が家事を一手に引き受けていては、これからの老後は大変です。家族と協力し、自分の自由な時間をたくさん作り、“ひとほな”咲かせるための準備をしませんか？ できることは周りにどんどん外注しましょう。

そのためには、まず我慢しないで、夫や家族に自分の本当の気持ち、YES・NOを伝えることです。今が仕切り直しどきのだから、自分をちょっとずつでも主張していった方がいいと思います。

私の居場所・仲間作りも大切です。孤独にならない、人を包み、人に包まれる社会の中で生きる、そうすると情報収集や意見交換も豊かにできます。

「でも」「だって」「だから」という3Dは禁物です。言い訳はしない、誰かのせいにしらない、自分がやりたいということは、自分で責任を持ってやることです。「夫が…」とか「子どもが…」と人のせいにして自分を甘やかしてはいけません。

最後に、少しのリスクは成長剤だと思って、ちょっとだけ大変なことをやってみてください。少し大変だなと思うことを頑張ると、ものすごい達成感があります。そうすると、ここまでできたのならもうちょっとやってみようかなと、どんどん自信が積み重なっていったら“ひとほな”咲かせた自分”に繋がっていくのではないのでしょうか。

咲いた花を見るときれいだなと思いますが、花を咲かせた人は、きっとそこに行くまでには知恵と努力を積み重ね、いろいろなことをやってきたのだと思います。自分を大切にしながら、家族に限らず、自分の周りの全ての「個」を大切にしてきた、そして大切にされてきた関係の中から花を咲かせたのではないのでしょうか。

それともう一つ、社会(法制度など)と一緒に生きる私を意識すること。「私は…、私は…」だけでは、花は咲かせられません。社会や人と繋がる自分を意識しないと、“ひとほな”は咲かせられません。

60歳を過ぎてからの私たちには平均寿命80歳までに、7万時間以上の活動時間があります。その時間を豊かに過ごすためには、ある程度の自分自身のお金が必要ですが、加えて人のストックも必要です。「私のお金」「私の人」を作っていただけたらと思います。(まとめ 伊藤登美子)

## ●子どもの暴力防止支援者セミナー ～子どもたちを被害者にも加害者にもさせないために～

DVはおとなだけの問題ではなく、若者たちの間で広くおきています。子どもたちをDV被害者にも加害者にもさせないために、知っておきたい知識と心構えを学びます。

日程	内容
11月27日(火) 10時～12時	子どもを被害者にさせないために 暴力容認の社会構造と支配の関係について
12月11日(火) 10時～12時	子どもを加害者にさせないために 恋人に暴力を振るうことは“愛”ではない

おとなのDVとデートDVは、婚姻関係にあるかないかの違いだけで、暴力をふるう理由も要因も同じです。デートDV防止に向けて、日ごろから子どもたちに関わっている方、DVに関心のある方を対象にしています。(全2回)

講師:山口のり子さん(アウェア DV行動変革プログラム)  
募集:30名  
参加費:無料  
保育あり:1歳～未就学児  
(一人1回 500円 要事前予約)  
申込:往復はがき、Eメール、FAXで。  
11月12日(火)必着

## ●パネル展「ストップ! ザ・暴力」 2007/10/18～2008/1/10 エセナおおた2階談話コーナー

### ◇ぴよたまクラブのお知らせ◇

- ☆親子で Be Happy! 対象:親と乳幼児  
毎月第2・第4木曜日 10:30～12:00
- ☆おもちゃであそぼ! 対象:子どもから大人まで  
毎月第4土曜日 13:30～16:00
- ☆おはなしの会 対象:子どもから大人まで  
毎週水曜日 15:30～



### ◇エセナおおたトークサロン◇

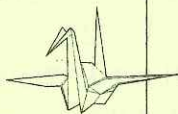
- ☆わたし語りカフェ  
11月10日(土) 13:30～15:30  
大田区立田園調布富士見会館  
どなたでも、会場に直接おいでください。

#### ◆折り紙広場

毎月第3土曜日 13:30～16:30  
参加費:一回500円(材料費含)  
(小学生は材料費のみ)

#### ◆女性に対する暴力ゼロをめざして

パープルリボン・プロジェクトにご協力を  
あなたにできることは3つ ①リボンをつくる  
②リボンを買う ③リボンを身につける



## ●働きたいすべての女性を応援! ワクワク ドキドキ就職ナビ 12月9日(日) 11:00～16:00 エセナおおた多目的ホール



- ①講演会 11:00～12:00  
車いす女優 萩生田千津子さん
- ②就労ワークショップ 12:00～16:00  
\*リサイクルスーツのバザー \*カラーコーディネイト  
\*ネイルコーナー \*子どもの預け先探しコーナー  
\*メイク ワンポイントレッスン \*個別就職相談コーナー  
\*おしゃべりコーナー \*キッズコーナー  
\*起業したい女性のための販売ブース他

### エセナおおた映画会

悲しみをこえて生きる勇気を与えてくれる“いのちの詩”  
**「千の風になって」**  
12月1日(土) 13:30～15:30  
エセナおおた多目的ホール

私のお墓の前で 泣かないでください  
そこに私はいません 死んでなんかいません  
千の風に 千の風になって  
あの大きな空を 吹きわたっています

## 女性限定! おシゴト応援セミナー ●就職のためのパソコン実践ナビ

経済的に困難な女性対象です。募集20名程度(先着順)。  
参加費無料。保育付き(6カ月～未就学児15名)無料。

- 平日コース 全6回15時間 13:30～16:00  
10/18、10/25、11/1、11/14、11/22、11/29  
池上会館コンピューター室
- 日曜コース 全5回15時間 13:30～16:30  
10/21、10/28、11/4、11/11、11/25  
大田区立蓮沼中学校コンピューター室

### 大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

〒143-0016 東京都大田区大森北 4-16-4

電話 03-3766-6587 03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

e-mail esenaota@yahoo.co.jp

HP URL <http://www.esenaota.jp/>

メルマガ [esenaotamail@yahoo.co.jp](mailto:esenaotamail@yahoo.co.jp)

指定管理者 特定非営利活動法人男女共同参画おおた

